

承認しました。

さらに、山本理事から外国人留学生奨学金の募集人員は四名であるが、申請者は三名であり、募集人員に満たないため、残りの一名分は、医学研究助成金の募集人員に充当したい旨の提案があり、これを承認し、医学研究助成金の授与候補者は五名としました。

選考委員会では、委員の互選で荒木栄一教授を委員長に選出し、議事に入りました。研究助成金については十七名の応募があり、選考にあたっては、本医学研究助成金の趣旨と従前から採用されている選考方針に基づいて審査されました。すなわち、一定の業績を有する研究であることを基本とし、医学・医療分野の多彩なフィールドの研究者を支援することに配慮して、実際の審査の過程では、熊本大学内からの応募者に関しては所属する組織や研究領域を考慮し、また、熊本大学外からの応募者に対してはより配慮を凝らしながら、申請者の研究業績、申請された研究案の新規性や発展性、申請者自身の研究内容であるか、等について厳正な審議を行い、五名が授与候補者として選出されました。なお、本医学研究助成金の選考方針に従い、当該年度の科学研究費補助金等の研究費を受けていない候補者が決定されました。その後、十月十二日の常任理事会及び十月三十一日の理事会を経て正式に承認されました。

応募者の内訳は、熊本大学大学院生命科学部から十名、同医学部附属病院から一名、同薬学部から一名、同研究センター等から三名、九州看護福祉大学から一名、国立病院機構熊本医療センターから一名でした。

授与者五名の氏名、所属、研究課題は次のとおりです。

・貝塚 拓 熊本大学大学院生命科学部 助教 分子生理学分野

「蛋白質導入法による膵β細胞分化誘導技術の開発」  
・佐藤 史 熊本大学大学院生命科学部 助教 病態生化学分野

「低酸素ストレスによる膵β細胞障害の分子メカニズムの解明」  
・石本 崇胤 熊本大学大学院生命科学部 特任助教 消化器外科学分野

「消化器癌細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用」  
・小谷 俊介 熊本大学薬学部 大学院先導機構 特任助教 創薬科学分野

「金属を用いないケイ素化合物による接続可能な有機分子触媒反応の開発」  
・田浦 学 熊本大学エイズ学研究センター 博士研究員 岡田プロジェクト研究室

「HIV自然免疫回避機構に関わる疾患エピジェネティクスの解明」

### 第十五回 医学国際交流助成金 (外国人留学生奨学金) の授与

当財団は外国人留学生に対する支援活

動の一つとして、外国人留学生への奨学金授与を行ってきました。平成二十三年度も「第十五回外国人留学生奨学金授与候補者選考委員会」が前記助成金授与候補者選考委員会に先立って開催されました。今回は医学教育部長から三名の推薦があり、いずれの応募者も奨学助成対象者として選考され、十月十二日の常任理事会及び十月三十一日の理事会を経て承認されました。授与者三名の氏名、所属は次のとおりです。

・崔 笑怡 熊本大学大学院医学教育部 博士課程一年(中国)(公衆衛生・医療科学分野)

・鄭 珉境 熊本大学大学院医学教育部 修士課程一年(韓国)(微生物学分野)

・尹 今星 熊本大学大学院医学教育部 研究生(中国)(機能病理学分野)

### 第十六回医学研究助成金及び第十五回外国人留学生奨学金の合同授与式開催

平成二十三年十一月二十八日(月)午後五時半より、熊本大学医学教育図書棟四階ゼミ室において、上記助成金及び奨学金の合同授与式が行われました。神原武理事長から助成金・奨学金とも各件十五万円が授与者一人ひとりに手渡されました。あいさつに立った理事長は「この財団は医学医療に理解のある多くの方からの浄財によって運営され、研究助成や

外国人留学生への支援も重要な事業の一つであること、貴重な助成金・奨学金を研究のために有効に使って、さらに研究の発展をはかってほしい」との励ましの言葉が述べられました。

これに対して、授与者を代表して石本崇胤氏と崔笑怡氏から、受賞の喜びと感謝の気持ちが返礼としてあり、今後も研究に邁進する旨の決意が述べられました。最後に授与者を囲んで同席した所属教授および財団常任理事も加わって記念撮影をして式は終了しました。なお、受賞者のプロフィールは30・31頁に掲載しています。

常任理事(広報担当) 木原 信市



### リハビリテーション・ケア 合同研究大会くまもと二〇二一を終えて(成果報告書)

リハビリテーション・ケア合同研究大